

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔 3 〕 議員名〔 大西 尚子 〕

1 年月日	令和7年1月20日21日（日数 1泊 2日）
2 場所	滋賀県大津市唐崎 全国市町村国際文化研究所
3 視察・研修事項	第3回市町村長等、議会議員特別セミナー
4 面接者	① 東京藝術大学 学長 日比野克彦先生 ② 慶応義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授 堀田聡子先生 ③ 社会福祉法人わたむきの里福祉会理事 野々村光子氏 東近江三方よし基金事務局長 山口美知子氏

5 視察研修、研修会の成果

- ① (アート×福祉) 岐阜県出身の日比野克彦先生でした。岐阜県文化祭で一おしのデザインを担当されています。下呂市は温泉と鮎と自然をテーマにした作品でした。障害者アートを1999年から始められています。2003年には新潟十日町の大地の芸術祭、アートとスポーツのテーマで2007年には鹿児島、瀬戸内芸術祭(水の中) エンジンをつけて航海する試みをされています。2006年には長良川で竹と和紙を使って0にして物を作る。目的に合わせて人が集うことに取り組み、岐阜美術館の庭にアートプロジェクトを作成されています。アートを通じて心が動く。海からの視点で考える。心豊かな活力ある社会の形成にとって芸術のもつ重要性への理解を促すこと。芸術をもって社会に貢献する。アートの可能性から、多様な人材の協働、社会実装、事業化、教育プログラム、社会課題、ニーズや異文化との接続、学内学外との多様な接点の発見、アートを基盤に人類と地球のあるべき姿を探求するための場、組織、仕組み、ともに作っていく場で研究場という考えの講義でした。壮大な取り組みだと思いました。下呂市では昨年、アートディスカバリーが行われ、予定者数を超えての来場者でした。人が集うことを下呂市も議論しながら今後につなげていけると思いました。アート作品の製作者との交流をしながら、地元住民との連携や準備するもの等、まだまだ取り組めることがあると思いました。下呂市にとって希望の持てる講義でした。
- ② (安心して認知症になれる社会を目指して) 2024年1月に施行された認知症基本法、共生社会の実現を推進するための、自治体の取り組み。古い認知症観が寝強く残っていて新しい認知症観で認知症になっても住み慣れた地域で仲間とつながりながら自分らしく暮らし続けられる社会を目指していくことが重要な要件になっていると思いました。
 - ・認知症になってもできることがある：認知症になったからといって何もできなくなるわけではなく、個人としてできることややりたいことがある
 - ・地域とのつながり：住み慣れた地域で仲間とつながりながら、希望を持って暮らし続けることができる。
 - ・前向きなメッセージ：認知症の本人からの前向きなメッセージを大切にし、社会的な役割を果たすことができる。
 - ・共生社会の実現：認知症の人が自らの意思によって地域とつながり、日常生活や社会生活を営むことができる共生社会を目指す。この新しい認知症観を広めることで、認知症の人やその家族がより良いサポートを受けやすくなり、診断や治療の遅れを防ぐことが期待されています。自分自身も高齢の親がいます。地域でも、下呂市でも取り組めることがあると思いました。
- ③ (誰もが誰かの応援者(地域)で応援しあうために) 障害者就業。生活支援センター長を勤めている野々村光子先生は大人の引きこもりの方に会いに本人の働く条件を探して切り取らないという世界、引きこまれる力を持つ彼らから学ぼうと日々行動されています。多くの課題に直面している人たちへの支援で一筋縄ではいかないことの連続ですが、多くの企業からの支援者にも恵まれ、何事にもポジティブに向き合って、講義でも、大変な

話を実に面白く話されました。自分ができるかと言われると、返事を即答できません。地域の見えづらい困りごとをあきらめ事にしない活動をして多くの引きこもりの方を働きもんに、就職を目標にしないで、カッコいい大人を目指す、ゆとりが持てるテキトーさが人を追い込まないことにもなるのかと思いました。日々の生き方を考える講義でした。

④ 人と人、人と自然をつなぐ～地域内での資金循環の仕組みから～

東近江市の地域経済循環分析から自然資本（環境）人的資本、人工資本、社会関係資本と4つの資本がそろっているとフローが生み出しやすいと。地方予算の10倍のお金が循環している。資金循環に東近江三方よし基金をいかして外からの調達をして地域で回し、流出を止める、タンス預金にしない取り組みをしています。2015年から続いています。財団法人で寄付、投資、応援、償還から助成をして支援、相談、情報収集、調査研究によって空き家問題、子供の教育問題、農業離れ、環境問題に役立てています。本人のつながりの増加、団体の状態の変化により、社会的インパクト投資の獲得ができ、将来に備えての循環が確立されつつあります。鎌倉時代から始まる相互扶助の庶民金融を参考にしながら。

下呂市においてどのように取り組んでいくのか、今のところ結びついていませんが、できそうな仕組み作りを検討してみることもありかと思いました。

今回の研修もとても有意義な勉強で、下呂市がよくなるために日々、アンテナをはって行動していきたいと思います。参加させていただきありがとうございました。

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔 3 〕議員名〔 大西尚子 〕

1 年月日	令和7年2月6日～7日（日数 1泊 2日）
2 場所	滋賀県大津市唐崎 全国市町村国際文化研究所
3 視察・研修事項	令和6年度市町村議会議員研修（自治体財政の見方～健全化判断比率を中心に～）
4 面接者	① 静岡県立大学教授 小西敦氏 ② 公認会計士 小室将雄氏
5 視察研修、研修会の成果	① 自治体の財政運営と議員の役割～地方財政の現状と健全化法の概要～ ・自治体財政の現状では、これまで、決算カード、財政状況等一覧表、財政比較分析表及び歳出比較分析表を作成し、地方公共団体の財政の健全化に関する法律における財政指標については健全化判断比率・資金不足比較カードを作成し公表していたものを、各様式で重複しているデータを整理し、より有効な財政情報を開示するため、平成22年度決算分から、財政状況資料集の再編成を行っています。これをもとに類似団体を見ながら分析を行いました。 ・財政運営において議員が果たすべき役割では議員の職務等の明確化について学びました。地方自治法、日本国憲法において職務を誠実に行うことが大切ということでした。常任委員会、特別常任委員会の設置について、一般会計決算での不認定についていくつかの事例をもとに検証しました。委員会での審査内容と進め方について、下呂市でも議論を深めたいと思いました。 ・財政分析指標の意義では、標準財政規模、標準税収入額、基準財政収入額、基準財政需要額、実質収支の計算式を学びました。留保財源の仕組みや導入理由に現実的な理由と政策的な理由とあり、留保財源率を引き下げて交付税での財政調整を強化すべきと（25%）。 ・財政健全化法の概要や健全化判断指標のポイントについて理解を深める講義でした。財政健全化法により全ての団体が毎年提出。必ず議会で点検。注意してみると、実質赤字比率、凍結実質赤字比率、実質公債化比率、将来負担比率をみて早期健全化の範囲か平均的な数値と照らし合わせてみていくことが大切と。見ていくときの考え方も学びました。財政再生判断比率の状況では令和4年度は全国で北海道夕張市のみでした。議員として非正常な財政運営が行われていないか評価、監視が必要と。同一市町村長等との比較や、決算審査で得た知見を予算審議に結び付けることが大切というまとめでした。 ② 自治体財政を見る～財政状況資料集に基づく指標分析～ ・地方公共団体の決算情報の公表について、整理分析のもととなる決算状況調、マクロベースで整理分析された地方財政白書、ミクロベースで整理分析された財政状況資料集を公開している。総務省から過去10年見ることができると。帰宅後に下呂市のを見ました。 ・財政状況資料集の概要について、どのようなものか説明がありました。

- ・自治体財政指標の分類について、どのようなものか説明がありました。
- ・自治体財政指標の概要について、形式収支、実質収支、実質収支比率、凍結実施赤字比率、経常収支比率、義務的経費比率、実質公債費比率、公債費負担比率、人件費比率、財政力指数、自主財源比率、将来負担比率についての計算式と表を用いて説明がありました。ラスパイレス指数、人口1000人当たり職員数の説明がありました。健全化指標の基本的な考え方、内訳を見ないと見えてこない部分がある。

- ・監査委員による健全化指標の審査について、審査の基本は指標値の信頼性を保証する。正確性を検証するための専門知識が必要。具体的な指標審査手続きの明確化（説明責任）

予算審議→分析→首長の考えは・・・

どこにお金を使うのか政治の求められている方向がある。

- ・二日目には6人グループに分かれて、一つ例を挙げて市町村の分析しました。代表

で一人が発表しました。色んな角度からの分析ができて良かったです。

後半は、地方行財政を取り巻く最近の動向として、経済・財政新生計画改革実行プログラム2024のロードマップが具現化されていることを学びました。コンパクトに4つになった。見比べてみる必要があります。

- ・地方公会計の推進について、限られた財源を賢く使う取り組みが極めて重要とされています。整備、活用の向けた改善と効率化が求められている。貸借対照表の見方を学びました。複数の資料を組み合わせる分析も行われていて、自分ももっと詳しくわかるようになりたいと思います。

- ・これからの自治体経営に求められるものについて、大きな社会環境の変化から、自治体経営に求められるものも変わっていき、今後の検証にあたってはバックキャストの考え方が重要になってくると。

公認会計士の小室将雄氏の講義は大変詳しく分かりやすい講義でした。大変有意義な研修に参加させていただきありがとうございました。